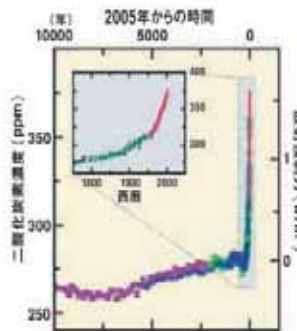


# 「21世紀環境立国戦略」の概要

## 1 地球環境の現状と課題

### 地球温暖化の危機

氷床コア観測と現代の観測による二酸化炭素濃度の変化



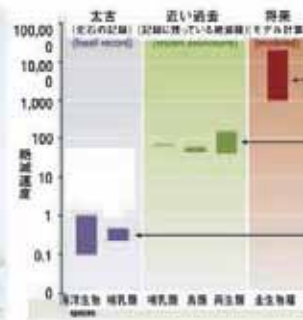
### 資源の浪費による危機

東アジア諸国における都市ごみの1人当たりのごみ発生量(1995年)と将来予測(2025年)



### 生態系の危機

絶滅種の割合は太古の時代の1,000倍。将来的には現代の10倍以上と推計



### 地球規模での環境問題の深刻化(「3つの危機」)

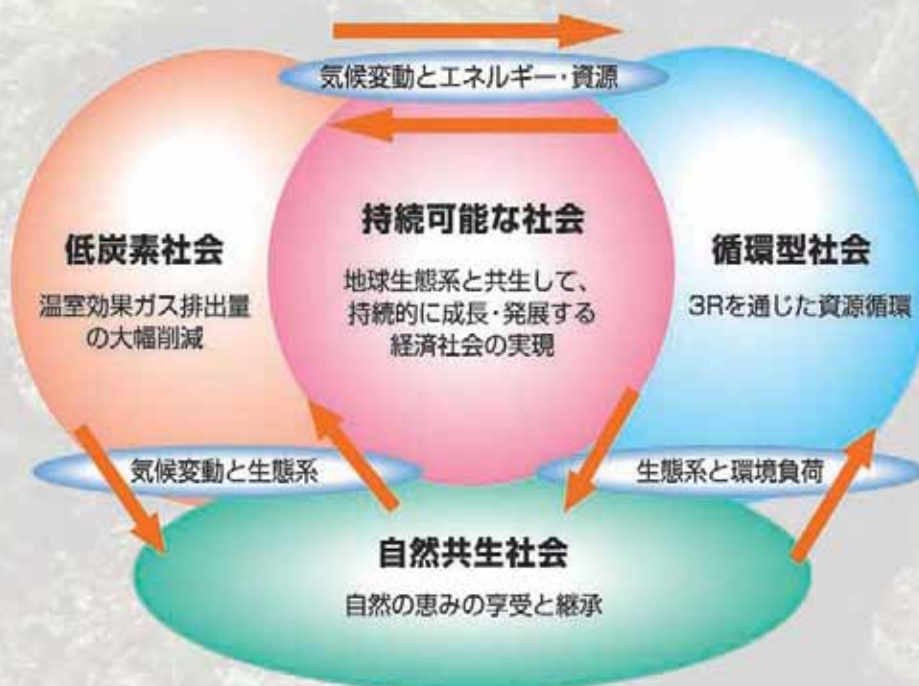
現在、人間活動から生ずる環境負荷が地球規模にまで拡大した結果、環境の容量を超え、地球生態系のこれまでの精妙な均衡が崩れつつあると言えます。

さらに途上国での人口増と経済成長を背景に、環境への負荷が一層増大していくおそれがあります。

これらは気候変動問題という「地球温暖化の危機」、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済活動による「資源浪費による危機」、開発などの人間活動による生物多様性の大幅な喪失という「生態系の危機」という「3つの危機」として人間の安全保障の問題とも密接に関連した人類が直面する最大の試練であると言えます。

健全で恵み豊かな環境は、悠久の歴史の中で育まれたもの。その恵沢は、将来世代に継承し、世代間で共有すべきもの。しかしながら、環境負荷が環境の容量を超え、地球生態系のこれまでの均衡が崩れつつあり、このままでは、社会経済の持続的な発展に支障を来す懸念がある。地球環境問題は、人間の安全保障の問題とも密接に関連し、人類が直面する最大の試練。

### 「持続可能な社会」の構築が急務



### 持続可能な社会に向けた取組(統合的取組の展開)

持続可能な社会は、上記3つの危機に対しては「低炭素社会」、「循環型社会」、「自然共生社会」としての実現がそれぞれ求められます。また、持続可能な社会の実現には、これらの社会の実現を個別に目指すのではなく統合的な取組を展開していくことが不可欠であり、自然との共生を図りながら、人間社会における炭素も含めた物質循環を自然、そして地球の大きな循環に沿う形で健全なものとし、持続的に成長・発展する社会の実現を図ることが必要です。

そのためには、国内外の幅広い関係者の参加と協働の下、一人一人の取組の輪を広げていくことが重要です。